

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3 月 22 日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	内山伊知郎
研 究 題 目	乳幼児期の行動発現が心理・社会的発達に及ぼす効果の機能的分析	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、乳児の行動発現が社会性の発達と関連する様相を解明する目的で実施している。これまでの研究において、乳児期の自己移動（はいはい）と空間認知能力や対人コミュニケーションの基礎に位置づけられるジョイント・アテンションの関連性を検討している。</p> <p>今年度はジョイント・アテンション、母子関係効果であるマザーリーズ、そしてバーチャルムービングルームを使用した光学的流動に対する姿勢補償に関する検討などを中心に行った。</p> <p>その研究成果は、日本応用心理学会において報告した。これらの成果は、「発達心理学研究」「応用心理学研究」「同志社心理」などの学術誌に掲載されている。さらに米国における学術誌に投稿するよう準備を進めている。</p>	